

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 30 年 7 月 27 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470204748		
法人名	医療法人社団 林医院		
事業所名	グループホーム 夕顔の家		
所在地	広島市安佐南区八木8丁目9-23 (電話) 082-832-0355		
自己評価作成日	平成30年7月24日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470204748-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470204748-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成30年7月23日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は和風と洋風の建物からなり、それぞれの雰囲気大切に、個々の能力や希望に応じた居室の選択、提供ができ、また相互に自由に行き来、交流ができる。各分野ごとに担当を設け、また内外の研修に積極的に職員のスキルアップを図り専門的知識を生かした個別ケアに取り組んでいる。個別レクリエーション、季節行事、外出支援に力を入れており楽しみのある生活を送れるよう支援している。医師による往診、看護師もおおり、細かな報告、連携をとることにより安心して生活できる体制を整えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

2ユニットがあり、新館と旧館に分かれている。新館はヨーロッパ風の建物で、室内にはおしゃれな家具やシャンデリアが常設されており活気のある生活が送られている。旧館は古民家を改装し昔ながらの空間で居心地の良い空間づくりができています。毎食手作りで食事が提供されており、職員も一緒に食事をする事で、なごやかな雰囲気の中過ごされている。また、楽しみのある食事の一環として、近所の食堂にお食事に行ったり、お刺身を注文したりと楽しみのある食事にも心がけている。職員が気づいたことも改善していく姿勢が法人内にあり、働きやすい雰囲気がある明るい職場となっている。

自己評価	外部評価	項目( ユニットA )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念と事業所の年間目標、2ヶ月に一度の月間目標を設定し、毎朝の申し送り後に唱和して意識を高めている。 毎日のリーダーが日々の目標を掲げ、成果・反省点を話し合い、理念の実践につなげている。	理念をもとにミーティングにて職員が意見を出し、月間目標を選定している。皆で話し合いのもと、同じ目標を共有できるようにしている。それをもとに日々の目標掲げ意識を高める努力を唱和を通じて行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	管理者、職員は散歩時近所の方に挨拶、祭りへの参加、亥の子祭りの訪問を受けている。施設の近辺が小学生の通学路でもあるので、子供110番や利用者と安全確認なども行っている。	町内会には所属していないが、地域の中での存在感は強く根付いており、サロンや地域のお祭り等の声掛けもできている。 また、散歩するときには地域の方との挨拶を含め、交流が図れるように努め、近くの商店との交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を通して、町内会長、民生委員等に認知症を理解してもらっている。 また、認知症アドバイザーとして地域に出向いている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一度、町内会長、民生委員、地域包括職員を交えて行事報告をしている。地域からは町内行事等の案内を頂いている。	運営推進会議ではなるべく包括や町内会長等で開催の声掛けを行い、多くの参加を促している。 その会議では、情報共有を行い、行事取り組みと話し合いに生かしている。	地域の資源を利用し、様々な視点から協力をいただけるよう声かけを行い、活発な運営推進会議が開催されることを期待する。
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	事業所から積極的に伝えていく為に、介護保険の手続き・記録・ケア問題等、運営や現場での直面している課題に対して協議し、解決に向けて取り組んでいる。 運営推進会議の案内、報告書・議事録を送付している。	市町担当者との連携を密にするために、多職種連携の研修会には積極的に参加し、顔の見える関係が築けるように努めている。 また、介護支援専門員が認知症アドバイザーとして市町に登録しているため、要望があったときには参加協力し繋がりができるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目( ユニットA )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	利用者が受ける身体的・精神的障害について、全職員が理解しており、必要に応じて専門職の助言を受けながら拘束しない為の支援を常日頃から行っている。24時間セコムを完備し、抑圧、抑制のない暮らしの支援に努めている。	身体拘束をしないように年に2回研修会を開催し、全職員が意識を持てるよう取り組んでいる。 現在ご家族の同意のもと4点柵をしている方が1人おられるが、今後は話し合いを行い外す方向で検討していく。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者、職員は定期的に高齢者虐待についての研修を定期的を受けており、施設内で共有している。職場環境に配慮し、職員がストレスフリーとなるよう心掛けている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	入居者一人ひとりの身体的・精神的・経済的状況を管理者や職員が把握しており、制度の活用にも努めている。制度の理解を深めるため、会議を開き随時関係者への案内を行っている。機会があれば外部研修に参加して理解に努めている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前には見学に来て頂き実際の様子を見て頂いて、安心して入居できる体制を整えている。契約については時間をかけて説明をしている。利用料金、リスク、重度化についての対応方針についてくわしく説明を行い、同意を得ている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	アンケート、相談窓口、運営推進会議の参加等、様々な手段で意見・苦情等を集めている。また面会時や電話等で近況報告を行いコミュニケーションを図っている。2ヶ月に一度夕顔便りで近況を報告している。週1回の管理者ミーティングで報告運営に反映している。	アンケートを年に一回行い、意見集約を行いご家族が来られた際には日ごろの会話を通じ意見をいただけるよう雰囲気作りを含め配慮している。具体的には、訪問マッサージの希望があったご本人、ご家族には、前向きに検討している段階の事例もある。	

自己評価	外部評価	項目( ユニットA )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃から、一人ひとりに意見や提案を募ると共に、会議において発表の場を設けている。管理を通じて代表者へ随時報告がなされ、運営に関する事項について意思決定がなされている。	毎月のミーティングと毎朝の朝礼で、改善してもらいたいことを共有し運営に生かしている。例えば、研修に行きたいとの希望を出したときには、聞いてもらった事例もある。特に介護環境の改善のため重介護者から軽介護者へと人員を入れ替え、働きやすい環境に配慮した事例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の資格取得に向けた支援や、日頃の努力や実績等を評価し、見合ったベースアップや昇格をすることで、常に向上心を持って働けるようにしている。疲労やストレスの要因について気を配り、心身を休められるよう休憩場所と時間を設けている。また、職員同士の人間関係を把握するよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の質の確保、向上に向けて事業所外で開催される研修になるべく多くの職員が受講できるようにしている。また、研修後はミーティングを行い、報告書を、全職員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他施設の勉強会、運営推進会議の参加や、研修にも積極的に参加して意見交換や情報収集を行い、サービスの質の向上という共通の目的の為、日々福祉の充実に向け活動している。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者の不安や求めていることを理解するため、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が受け入れられるような関係作りに努めている。また、専門的な悩みなども担当者を交えて相談が受けれる体制を整えている。		

自己評価	外部評価	項目( ユニットA )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	日頃から家族とのコミュニケーションを密に取り、家族が求めているものを理解し、不安や思いを受け止め支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族の思いを聴く時間を十分に設け、状況を確認して出来る限り対応していくように努めている。また、早急な対応が相談者には可能な限り柔軟な対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	個性やその方が持っている力、どのような生活を望まれているかを把握し、利用者主体、人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、寄り添うという意識を持ちながら和やかな生活が出来るように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員は家族の思いに寄り添いながら、日頃の状態や思いを報告するとともに、本人と一緒に支えるために家族と同じような思いで支援していることを心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	これまで培ってきた関係を断ち切らないように手紙やはがき、電話等を使用して関係が途切れないように支援している。また、実際に継続して出向かれています。また、実際に継続して出向かれています。	昔馴染みの関係が途切れないように、遠方の方には電話をかける支援を行っている。年賀状等も関係性が途切れない様に支援に努めている。中にはいつでも馴染みの関係が保てるように携帯電話の持ち込みをしておられる利用者もおられる。	

自己評価	外部評価	項目( ユニットA )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者間での関係作りを支援しながら、孤立することなく、ともに暮らしを楽しめるよう支援している。また、利用者同士の関係性についても職員が情報連携し共有している。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用者の事情等で利用が終了した後も相談窓口を通じて、関係性を大切にし、その後の支援に応じる姿勢を示している。また、転居先に職員が訪問するなどして、関係が断ち切らないよう働きかけている。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族や本人を交えてのアセスメントで、生活歴や経験などの把握と、日々の行動や表情から汲み取り、介護計画に反映させることで安心した生活が送れるよう努めている。また、日ごろのコミュニケーションでも、本人が活躍できる場面作りを家族とともにしている。	日々の会話の中で情報把握に努め、その人その人に合った生活の把握につとめている。 その人の嗜好に合う料理に反映させたり、入浴日には本人様の着たい服を選び確認し準備して行くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	プライバシーに配慮しながら、本人に関わりのある方から情報の提供、協力してもらうことで、なじみの関係を築き上げ、これまでの暮らしに浴えけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員全員がいつでもカンファレンスシートを見ることができ、利用者一人一人の能力や生活リズムを把握できるようにしている。また、変化を発見した場合には、都度、更新・見直しを行っている。		

自己評価	外部評価	項目( ユニットA )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人や周囲の方からの意見やアイデアを基にアセスメントを行い、本人がその人らしく暮らせる支援として何が必要で求めていることを中心に介護計画を作成している。</p>	<p>ケアプランは介護支援専門員が作成しているが、それをもとに全職員に見てもらい修正して原案として作成している。中には転倒が心配される入居者へのケアプランには具体的な対策を記述するなどした事例もある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の申し送りで、利用者の変化を確認し記録している。申し送りノートや個別記録には、重要事項や職員しか知り得ない事実やケアの気づきを具体的に記し、職員で共有しながら日々のケアや介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>利用者・家族の状況や要望に応じて宿泊や食事の提供を行っている。また、その方の状態に応じて、協力病院の通院支援や転居、同系列の転居など、その時々に対応を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>利用者が生き生きと安心した生活が送れるように、各機関や町内会等に運営推進会議の参加を促し、意見交換や協力を得て支援を行っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人、もしくは家族の希望する医療機関で受診している。医師の訪問診療、24時間受け入れ病院連携(安佐市民病院・野村病院)各医療機関関係者確保(外科・内科・皮膚科・歯科)により、適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	<p>ご本人、ご家族が希望する医療機関がある場合は、関係が途切れないように配慮している。法人の内科、外科医が多くのかかりつけになっているが週5日の往診があり強固な医療連携が図られている。夜間は担当看護師に24時間オンコールがあり、医療体制が構築されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目( ユニットA )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	個別の状態をよく知る看護師が常駐しており、日常の健康面や医療面的な面について他の職員と情報を共有し対応するとともに、緊急時の対応、薬等について勉強会を開き、協働体制を築いている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人のストレスや負担を軽減するために、家族と相談しながら医療機関に情報を提供し、スムーズな退院に繋がるよう退院計画を本人、家族、スタッフで話し合い、支援を行っている。又、入院された場合には、こまめに連絡を取り医師同士の連携をとって、受入れ体制を整えている。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時はもちろん、状況や状態変化がある際には、意思確認や家族・医師・看護師・ケアマネ・介護スタッフとで話し合いを行い、その時々可能な事・困難な事を見極め、本人の尊厳や納得した最期を迎えられるよう支援している。	看取りに関する説明や契約を行なっているが看取りを行った事例は無い。状態の悪くなった入居者には医療と連携しながら入院等につながるように配慮している。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事業所独自のマニュアルに基づき、当理事長林Dr・西野Dr・看護師の指示や指導の基、全職員が対応出来るように定期的に学ぶ機会を設け、緊急時に活かせる技術を身に付けるよう取り組んでいる。		
35	13	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の協力を経て年2回、利用者と共に防災訓練を行っており避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練や点検を行っている。また、町内会を通じて火災などが起きたときのご協力の力を得ている。	この地区は、ハザードマップによる水害や土砂災害の危険性が考えられ日ごろから避難経路の確認ができています。年に2回消防署の立ち会いのもと火災訓練を実施しており、内1回は夜間を想定した訓練が実施されている。	



自己評価	外部評価	項目( ユニットA )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員全員が利用者・家族に対して敬意を払い、本人本位に沿ったさりげないケアを心がけ、羞恥心に配慮して尊厳を維持している。また、個人情報外部に漏れないよう事業所管理を徹底している。	プライバシーを損ねないように排泄介助の際には個別に小声で声かけを行い、人格を尊重している。また、皆での入浴を嫌がられる入居者には、別の日を設け個別に入浴できるシステムが構築されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の表情や反応、それぞれの意思表示を素早くキャッチし理解した上で、個々の能力に合わせた説明を行い、自己決定ができるようにしている。また、日常でも好みや希望など本人が選び決めやすい場面作りや関係作りができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの生活リズムやしたい事、思いを尊重しながら臨機応変に対応している。また、個別支援やその日・その時の希望や要望を本人と相談しながら過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	一人ひとりの個性・希望、これまでの生活歴やその時の本人の意向を大事にし、その人らしいお洒落ができるよう支援している。また、季節感・清潔感のある服装や髪形を本人の希望に合わせて行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	本人ができる力を最大限且つ無理のないように活かしてもらい、準備や後片付けを手伝っていただき、空いている席で共に食事を楽しみながらさりげなくサポートしている。また、定期的にアンケートをとり、好みの食べ物や季節感のある食事を提供している。	料理専用のスタッフも配置し、食事は3食とも手作りで提供し、職員も一緒に食べるようにしている。近所の食堂に外食支援で出かけたり、外注で刺身を提供したりと楽しみのある食事の提供にも努めている。ときにはレクレーションの一環で、どら焼き等楽しみながら作って食べることもある。	

自己評価	外部評価	項目( ユニットA )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p><b>○栄養摂取や水分確保の支援</b></p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握し、その日の体調に合わせて主食をお粥にしたり、副食を食べやすく刻んだり、管理栄養士を中心に対応している。</p>		
42		<p><b>○口腔内の清潔保持</b></p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後の歯磨き、イソジンの使用、義歯洗浄等は日常的に行い利用者の力を引き出しながら清潔保持等に努めている。また、利用者によってはガーゼやスポンジなどを使用し、乾燥防止、肺炎予防を行っている。</p>		
43	16	<p><b>○排泄の自立支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>一人ひとりの身体状況や排泄パターンを把握し、羞恥心や不安への配慮をしながら見守りや困難なところはさりげなくカバーしている。</p>	<p>夜間オムツで昼間リハビリパンツの方も、排泄チェック表をもとに排泄間隔を把握しその人その人に合わせた時間での声掛けにより自立支援に心がけている。また、トイレ内で失禁がある入居者には適切な体制を支援し、職員による声かけを行うことで、徐々に失禁しないように改善した事例もある。</p>	
44		<p><b>○便秘の予防と対応</b></p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>個々の便秘の原因を探り、食事・排泄・活動状況等を見直し、家族とも相談しながら自然排便を促すよう働きかけている。また、必要であれば無理のない下剤調整や浣腸なども検討している。</p>		
45	17	<p><b>○入浴を楽しむことができる支援</b></p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>職員のペースではなく、利用者の希望に合わせて入浴してもらい、入浴時にはなるべく同性の職員が見守りなど行うよう配慮している。また、入浴前のバイタルチェックや入浴後の水分補給など健康面にも気を配り、安心且つ楽しみの時間となるよう努めている。</p>	<p>入居者の個別のタイミングに合わせて入浴できるシステムが構築されている。皮膚の弱い入居者には、ご家族了承のもと優しいタイプのシャンプーや石鹸を使用し、入浴後にはローションを塗る等配慮に心がけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目( ユニットA )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	これまでの生活習慣を関係者と 検討し、日中の活動を促しながら 、本人にとっての自然な生活リ ズムに近づけるよう努めている。 また、体調や希望、環境作りに 配慮して、ゆっくり休憩や睡眠 がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援  一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	理事長、主治医、看護師による 薬の勉強会を行い副作用、用法 、用量について理解し、職員が 個々の内服薬を把握出来るファ イル作成をしている。また、服 薬時には飲み忘れや誤薬がない よう本人に直接手渡しし、きち んと服用出来ているか細心の注 意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	潜在している記憶や出来る力を 最大限生かして自分らしく暮ら していけるように生活歴や経験 を把握し、活躍できる場面作り を行っている。また、音楽療法 や季節ごとの行事、地域のボラ ンティア活動などにも参加し、 楽しみ事が増えるよう支援して いる。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。	個々の希望に沿って、日常的な 散歩や買い物はいつも出れるよ うに支援し、重度の方でも外出 ができるように介護タクシーを 利用するなどして支援している。 また、季節の行事や年に2回は 全員で外出する機会を設け、家 族の方にも協力して頂いている。	季節と気候を見ながら歩ける人 、車椅子を問わずマンツーマン で散歩に日常的に出かけるよう に支援されている。週に1回は 外に触れていただけるように 努め、散歩が難しい場合には バルコニーに出て外の風に触 れる様にしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	家族と本人の希望や意味、大切 さを話し合い、個々の力量を考 慮した上で、少額でも所持金を持 って頂いたり、買い物に行く時 は本人が支払えるよう支援する など、お金がある安心感や満足 感を感じて頂けるよう支援して いる。		

自己評価	外部評価	項目( ユニットA )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	日常の手紙・暑中見舞い・年賀状等を書いて頂いており、プライバシーに配慮しながら本人が読み書きしたり、電話を使用する事を個別で支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節を感じられる花や飾りを取り入れて、居心地良く過ごせる雰囲気になっている。リビングやバルコニーは風通しも良く、近隣の田んぼや電車の音が聴こえ、季節感を感じやすい。また、縁側や鯉の池、畳部屋など利用者世代には馴染みのある作りとなっている。照明類も落ち着いた雰囲気のある空間作りに配慮している。	新館は洋風で室内ではシャンデリア、家具にはヨーロッパ風の物が置かれ、おしゃれな共用空間作りがなされている。また旧館は古民家を改装しているため情緒豊かな雰囲気の中で落ち着いた生活ができるように工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個室で一人になれる空間とフロアで他の入居者と過ごすソファや椅子を置き、気の合う入居者同士がくつろげる空間を作っている。また、畳部屋を団欒スペースとして設けたり、バルコニーに椅子を設置するなどして、時々気分によって過ごせる場の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた調度品や使いやすい物を購入したりと、居心地よく、またプライバシーに配慮して、本人にとって安心できる雰囲気作りを本人・家族と共に築き上げている。	グループホームでは、ベッドと衣類ダンスが配置しているが、馴染みの家具等がある方は持ち込みされている方もおられる。一人一人に合った配慮をされていることで本人が居心地良く過ごせるような工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各扉などに場所や説明の札はもちろん、利用者の視線に合わせ、設置の高さや文字の大きさ、絵を取り入れるなどして工夫している。また、個々の身体状態や能力、安全を配慮した上で、家具の設置や物の在りかを分かりやすくしている。		

V アウトカム項目( ユニット A ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム夕顔の家

作成日 平成30年9月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束をしている方が1名いる。(夜間ベッドを4点柵にしている。)	身体拘束ゼロを目指す。	・夜間見守りの強化。 ・体動を観察して必要があればベッド下にマットを敷く。	3ヶ月
2	2	地域とのかかわりが少ない	行事等に地域の方に参加してもらい交流を図る。	・ボランティアの踊りに町内会長さんを通じて地域の方に参加してもらう。	3ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。